

「地域別データ分析ブック」について

1 全市域編

全市域編では、「健康度」と関連する事項を解析し、それらの事項に係る国・県との比較や、市内39地区間の比較を掲載

【地区ごとの健康度】
 全市における各地区の相対的な立ち位置を掲載
 ※国の「健康スコアリング」の考え方を参考に、年齢別に3つの健康度を算出（点数が高いほど健康）

①介護健康度		②生活習慣健康度		③子ども健康度	
泉が丘	13.69	陽東	20.20	篠井	9.37
富士見	13.38	東	19.79	富屋	7.99
戸祭	13.17	明保	19.42	富士見	7.89
城東	13.10	宮の原	18.41	陽東	7.85
上河内	12.83	中央	18.17	城東	7.84

(以下、全39地区を掲載)

【本市の状況】
 相関関係のあった事項の本市の状況を国・県と比較
 例) 要介護認定率(H29)

【健康度の要因分析】
 相関係数を用いて「健康度」と関連する事項を解析
 例) ソーシャルキャピタル(社会参加)*と介護健康度の関係
 *：ボランティアや趣味活動等毎月1回以上参加する高齢者の割合
 ⇒弱い正の相関が見られる。(相関係数=0.2959)

【市内各地区の状況】
 「健康度」と相関関係のあった事項の各地区の状況を色分け地図で掲載
 例) ソーシャルキャピタル(社会参加)の割合

➡ 全市域編のデータの読み取り結果、主な分析結果等を掲載

2 地区別編

地区別編では、相関関係のあった事項等について、全市と当該地区の比較を中心に掲載

※ 連合自治会圏域(39地区)ごとに作成・掲載

【関連事項の状況】
 全市との比較をレーダーチャート等で掲載
 例) 要介護リスク(左)・ソーシャルキャピタル(社会参加)(右)の状況

【地域資源の状況】
 地域資源をマップ上に見える化
 ※地域集会所や高齢者の「通いの場」(サロン)などをプロット

➡ 各地区のデータの読み取り結果、考えられる地域ごとの強み・弱み(地域課題)を掲載

3 評価

外部アドバイザー(京都府立医科大学/上原教授)及び宇都宮市保健所長による全体評価も併せて掲載